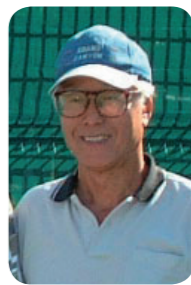


「那須をテニスの町に スポーツと文化がコミュニティをつなぐ」

那須田園テニスクラブ 代表・大西吉武さん



那須町には、「50歳未満お断り」という少し変わったテニス大会があります。毎年5月に開催される「那須ベテランテニス大会」です。首都圏を中心に120人程が集まり、1泊2日で、那須の自然を存分に味わいながらテニスを楽しんでいます。

その仕掛け人は、那須町豊原在住の大西吉武さん。戦後、ご家族とともに那須に入植。商社で20年を超える海外勤務を経験された後、13年前にふるさと那須に戻ってこられました。テニス暦はなんと50年。「那須田園テニスクラブ」を主宰して仲間とテニスを楽しむかたわら、「那須をテニスの町に」をスローガンに、プロを招いてのテニススクールの企画など

精力的に活動されています。

「趣味のテニスを生かしたボランティアをしたいと思っただけです」。そんな大西さんによると、テニスの効能はふたつあると言います。心身ともに健康でいられること、そして、地域に仲間ができること。どれも、地域に住む高齢者にとって、は欠かせないことです。だから大西さんは、勝ち負けより、仲間をつくって楽しめるゲーム形式をとるなど工夫されているんだとか。

那須の住人には大きく分けて、3種のバックグラウンドがあります。先祖代々の旧農家、大西さんのような戦後入植した開拓農家、そして別荘ブーム以降の新住人の方。この3つのコミュニティの接

点として、スポーツや文化はとても大切なんだと、大西さんはおっしゃいます。

「テニスに限らず、自分の好きなことでクラブを作るといのは仲間づくり、コミュニティづくりにはとても有効です。人より特別優れている必要はないんです。自分が好きなことでクラブを作って、自分は世話役になればいいんですから」。地元のコミュニティをつなぐ手段として、また首都圏からやって来る人びとの楽しみとして、テニスをもっと活用したい。そう話す大西さんはとても朗らかで楽しそうです。

「那須田園テニスクラブ」は、毎週水・木・土・日・祝日に、那須チサンカントリークラブ内の専用コートで練習をしています。年会費はなんと1万円。ピギナーのコースもあります。テニス以外にも、バーベキューや交流会など活動は盛りだくさんです。この夏、爽やかな汗を流しに、お出かけされてみてはいかがでしょうか。

「那須田園テニスクラブ」HP

<http://homepage.mac.com/jiyuin/nasu-den-etc/>

那須通信

vol.2
2008年7月
発行

発行:
「那須で
100年コミュニティを
つくる会」

〒345-0302
栃木県那須郡那須町
大字高久丙1777-434
サンロード池田

電話: 0287-76-7433
FAX: 0287-76-7434

検索 みなこい新聞
<http://www.minakoi.jp/>

住みたい人、創りたい人、 みんな集まれ 那須100年コミュニティでは 誰もが主役、つくり手です

上の写真は、「那須100年コミュニティ」プロジェクトの、とある週末のひとコマです。子どもも大人も混じって随分にぎやかですね。場所は、那須池田のプロジェクト事務所です。この日は、首都圏から4組8名の老若男女がはるばる那須へやってきて、「那須100年コミュニティ」の構想に関わる打ち合せと現地見学会をしていたのでした。

「元気なうちは東京と行き来しながら写真の仕事をしたい」「こんな風に、子どもがいろんな世代の大人と触れ合える環境がいい」などさまざまな意見が飛び交います。まだ設計図もできて

いませんが、興味を持ってくださった方たちが那須に集まり、自分の生活をイメージしながら夢を語り合っていました。この風景は、「那須100年コミュニティ」の大事なプロセスを象徴する一枚なんです。

「那須で100年コミュニティをつくる会」では、住まいは「提供するもの」でも「提供されるもの」でもないと考えています。住みたい人、働きたい人、創りたい人、関わりたい人が、自ら感じたことを見つめ、発信し、他人と共有し、問題を解決していくことを繰り返すことで、暮らしと住まいはつられていくと考えているからです。

ですから、たくさんの人に興味を寄せていただき、自分の暮らしの夢をここで描いてほしいと思っています。コア施設の設計に際して、設計コンペティションという公募を行ったのもそれが理由です。いろんな方が自分を主役と考えて関わってくださる中で、このプロジェクトが育ってほしい、そう私たちは願っています。

今月から、現地見学会、セミナーとみなさんとお会いする機会をたくさん設けます。まずはどうぞお気軽にお出かけください。

那須より、 暑中お見舞い申し上げます。



2008年7月・8月セミナー&イベントのお知らせ

すべて、予約が必要です。「那須で100年コミュニティをつくる会」那須池田事務所
電話：0287-76-7433 FAX：0287-76-7434 メール：nas100@conet.or.jp

東京

7月

「1000万円と年金で、豊かに暮らせる住まい選び」

講師：近山恵子（社団法人コミュニティネットワーク協会理事長）

“老後は自立の季節”——。でも、お金、家族、健康など、いざとなると心配なことばかりで、いきいきと今後の暮らしを描くことができにくいものです。男女問わず、誰でも最後はひとりです。お金をかけないゆとりある老後のために、本当に必要なお金、住まい、暮らし方はどのくらいでしょうか。「友だち村」など、「自立と共生の住まい」を構想・実践してきた近山恵子と一緒に、豊かな老後の暮らし方を考えます。

- 日時：7月27日(日)①10時30分～ ②14時～
- 会場：暮らしと住まいの情報センター（銀座・七十七ビル3F）
- 参加費：無料
- 定員：50名

◎講師プロフィール

近山恵子（ちかやま・けいこ）
社団法人コミュニティネットワーク協会理事長。母の在宅介護をきっかけに、どんな環境でもその人らしく生きられる生活空間の大切さを痛感。高齢者住宅の企画・開発・運営などプロデュース事業の他、民間初のデイサービス設立など、高齢者が最後までその人らしく生きるための自立と共生を支援するプロジェクトを多く手がける。



8月

「ひとりの家族 ひとりの老後 私の居場所」

講師：松原惇子さん（SSSネットワーク代表・「ひとりの老後は怖くない」著者）

“男のひとりには嫌われる。そろそろひとりで生きる覚悟をしなくちゃ”
15年前から、「21世紀はひとり家族の時代」と言い続けてこられた、松原惇子さんにお話を伺います。元気が出ること間違いなし!

- 日時：8月24日(日)14時～
- 会場：暮らしと住まいの情報センター（銀座・七十七ビル3F）
- 参加費：無料

那須

箱膳体験イベント in 那須

「那須100年コミュニティ」の食のコンセプトを体験しに来ませんか？今回は、「箱膳」を取り上げます。

- 日時：8月29日(金)11時～14時
 - 会場：「那須で100年コミュニティをつくる会」那須池田事務所
 - 参加費：3000円（交通費別途）
 - 定員：20名（那須塩原駅より送迎いたします）
 - 内容
 - ・箱膳レクチャー
 - ・夏献立の箱膳体験
- 献立（なす、とうがん トマト きゅうり 枝豆など）

「箱膳」とは？（「NPOえがおつなげて」資料より）

「箱膳とは、かつて商家や農家などで用いられた膳です。自分の食事用の食器、飯茶碗や汁碗、それに小皿を箱の中に入れておき、食事時になると食器を取り出し、箱の蓋を裏返した上に載せるとお膳になります。それにご飯や味噌汁をよそって僅かな惣菜を自分の取り皿に取り分けて文字通りの一汁一菜の食膳になります。食べ終わると、茶碗に白湯を注ぎ一切れ残した漬物できれいに食器をすすぎ、その漬物を食べながら湯を飲んで布巾で拭いて再び箱膳に戻します。

一人ひとつの箱膳は、個人の食器であり、古くからの日本の食文化を継承するものです。また、無駄のない食生活を自然と学ぶことができるため、食を通じた礼儀作法も習得できます。



「那須で100年コミュニティをつくる会」 …をつくっていくメンバーをご紹介します

「那須で100年コミュニティをつくる会」は、社団法人コミュニティネットワーク協会が構想してスタートしたプロジェクトチームです。この役割を、「頭」に例えてみるなら、この構想を実現、発展させるためには、協働してくれる「手足」や「体」が必要です。「那須で100年コミュニティをつくる会」…をつくっていくメンバーを毎回ご紹介していきます。

企画・構想

社団法人コミュニティネットワーク協会

社会の「困った」の声を集め、コミュニティの創生を支援します。



東京・銀座の「暮らしと住まいの情報センター」

「那須で100年コミュニティをつくる会」を主宰しています。神戸での在宅での看取り支援からスタートし、誰もが自分らしく生き、そして自分らしく死ぬことができる社会を目指すには、日々の生活に基盤を置き、地域中心の考え方を柱にしなければならぬという考えから、「コミュニティ創生・再生の支援を目的に1999年に社団法人となりました。コミュニティづくりのための調査・研究、ネットワーク構築、人材育成の支援、また「暮らしと住まいの情報センター」を東京・大阪・名古屋に設置し、高齢者住宅やふるさと暮らしの情報提供と相談を行っています。

事業主体

株式会社コミュニティネット

「手足」となって、構想を具体的な事業にします

伊川谷プロジェクト全体イメージ



は、発起人のおひとりである柳田邦男さんを招き、設立記念フォーラムを行う予定です。

「那須100年コミュニティ」の実行部隊です。社団法人コミュニティネットワーク協会が入居希望者や連携組織と練り上げた構想を、モデル事業として実践する役目を担います。

この春には、入居予定者や地元協力者とともに、「完成期医療福祉をすすめる会」を立ち上げて、地域の人間同士の支えあい、最後まで自分らしく生き、死ぬことを支援しあうための研究会をスタートさせました。10月に

現在、兵庫県神戸市西区伊川谷駅前にて、高齢者専用賃貸住宅「ゆいま〜る神戸伊川谷」（2009年秋竣工予定）を中心としたまちづくり事業を展開しています。

那須プロジェクト、ここに期待します！

地元から

「地元の魅力を知ってもらうことが、ふるさと那須への恩返し」

サン・ノーブル・ホーム株式会社
代表取締役 福山博之さん

私は、昭和17年、東京目黒区で生まれ、その後姫路等を経て、昭和22年、5歳の時に、この那須高原に移住してきました。父が医師で、当時まだ医療のなかったこの那須の地に、僻地医療ということに赴任したことによりです。

父はこの、当時はまだ自分の背丈より高い篠竹と山林に覆われたまさに大自然の土地で、みなさんの健康維持に貢献し、愛され、尊敬されておりました。そんな姿を見て育った私も、この大自然の中で酪農に取り組み、那須高原とともに成長してきました。

そして、サン・ノーブル・ホーム(株)での土地・中古・新築の販売を通し、より多くの人にこの那須高原の素晴らしさを知っていただき、かつ、移住を通して、多くの人とその素晴らしさを分かち合いたいと努力してまいりました。

そういった背景を基盤に成長しこれまで仕事に取り組んできた私も66歳。これまで私を支えてくれたこの那須高原になんらかの恩返しをする時期になってきたと思っております。これをお読みの方々に是非、那須高原においでの際は「この那須プロジェクトや私どもをご訪問ください。那須高原の素晴らしき自然、そこにある暮らし、そして安心でおいしい食べ物、そこから生まれる健康。そんな魅力をもっとお伝えできればと思います。」

先輩から

「今が一番自分らしい。これかもずっと自分らしく」

陶芸家 三上勝敏さん

那須とは定年になる前年の年に出会いました。老後は鉄筋コンクリートとアスファルトの都会ではなく、山の中か林の中で過ごしたい。どうせ死ぬならそういうところで死にたい。そう思って土地を探していたとき那須に出会いました。一目惚れして、一年後に引っ越して来ました。「そんな不便なこと」と言う女房は埼玉に残して、ひとり暮らし始めてもう20年になります。

那須で陶芸に出会い、仕事以外にできた初めての趣味に夢中になりました。個展ができるようになり、やがて陶芸教室を開けるまでになり、陶芸は生きがいになりました。私は今がいちばん自分らしく生きていると思います。

74歳のとき心筋梗塞を起こして、気がついたら車の中でうずくまっていました。那須ですと暮らしたい。これからも自分らしく生きていきたい。そのために、安心できる環境とはどんなところかと考えるようになりました。

私は、自分でできることは自分でやる、行政や福祉が何かしてくれるのを待つのではなく、自立の心構えが大切だと思っています。そうすれば、自然と人は助け合えるものです。「那須100年「ミニユニティ」がそんな場所になってくれることを期待しています。」

東京から

「いつまでも、わがままいっぱい暮らしたい」

多田節子さん

私は、香川県の金比羅宮の近くで育ちました。海も近いですが、山も深いところですので、木の匂い、若葉の色を季節ごとに感じながら育ちました。今は、品川駅がすぐ近くの大都会に住まいですが、いずれまた豊かな自然の中でゆつたりと、四季を感じながら暮らしたいと思っています。

もうひとつ私の暮らしに欠かせないのが、いつでも人と関わり続けることです。いくら田舎の環境が好きでも、自然の中でぽつんとひとりでは寂しい。自分のペースでゆつたり暮らしながらも、人の気配がいつも感じられる空間があり、そこに住む人々と一緒にまちづくりができれば素敵です。

たとえば、歩いていけるとこにおしゃれな喫茶店があつて、そこに行くといつも誰かが迎えてくれて、おいしいお茶とお菓子でワイワイおしゃべりができる…。ハウスでは、森林のような共有の広い庭に、犬や鶏、うさぎが跳ね回っていて、みんなでお世話をしてみようか…。

矛盾するようですが、「那須100年「ミニユニティ」では、死ぬときまでわがままを言い合える関係や暮らしができるのではないかと期待しています。」



森林酪農が スタートします。

「那須100年」コミュニティでは10万坪のうちの3万坪を使って、森林酪農という方法による森林再生を計画しています。

森林酪農とは、手入れの行き届かなくなった山林に、牛を放牧し、舌と蹄によって下草を刈り、土地をならしてもらうことで、森林の維持管理、林業以外の山林利用、そしてもちろんおいしい牛乳の利用と、一石三鳥ができる自然放牧型の酪農のことです。これによって森林を明るく保ち、酪農や山仕事をしたい入居者の仕事づくりをし、健康な牛のおいしい牛乳を毎日飲める、牛の力を借りて循環型のコミュニティづくりを目指します。

*但し、実際の放牧開始は08年秋。牛乳製造は09年秋の予定です。

山暮らしが得意なお母さん牛求む…!

那須町は言わずと知れた酪農王国。あちこちに牛を見ることが出来ます。「那須100年」コミュニティでも、小型で茶色のジャージー種という牛を、3万坪の敷地を使って自然放牧す

る計画です。ところが、肝心の牛がなかなかいないのです。

日本の酪農のほとんどは、牛をずっと牛舎で飼います。ですから、その環境で生まれ育った牛たちは、自分の足で森に分け入って、草を選んだり、硬い草を噛み切ったりということを覚え

ることはありません。守られた環境の中で一生を過ごします。

ですが、森林酪農ではまるで事情が異なります。24時間365日、山地や森林に放され、必要な餌の確保は牛自身にまかされます。牛の方も、生命力や体力、餌を見分ける経験値が必要になるのです。つまり、「那須100年

コミュニティ」の森林酪農には、山暮らしが得意なお母さん牛を、しかも珍しいジャージー種の中で探さなければいけないのです。こんな条件を満たした牛は、全国を探してもなかなか見つかるものではありません。

今秋より、子牛の「研修」がスタート

そこで、那須では、ジャージー種の子牛を自然放牧で育て、「研修」することから始めることになりました。時間と手間がかかりますが、彼女

たち(?)の成長が「那須100年」コミュニティの森を守り、入居した方や地元の方に喜んでもらえる森の姿を作ることに繋がります。人間の思うようにならない生きものを相手にするもどかさとうれしさを、入居される方と味わえる日を夢見て、子牛たちの「研修」をこの秋からスタートさせる予定です。

